語林類葉

六

ホ 2
398
6

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

宮内省圖書寮

語林類葉卷之十一

清水濱臣輯

つの部

二言

つぎさいてれとの類之

保憲女集詞　たけの衣きれ葉をつきあつめ。

つゝ

竹取　おほるつうきのいとかゝやのむかのつくれあれを

みつもとゝ　をハきをくむ　作る。

秋つけハ

某つゝ 附

万八 秋つけたをく物うゑにおく客のはぬへくもとハ思ふとや

○

づ 光

源 後合 一帖づ

道行——

黄泉——

某つと 畏

万八 ちとせ風へ——あきさを多をまき玉梓の道ゆきつとゝおもんあの世元

京——

老——

家——

山——

旅——

○栄花 音楽 あう客やとみつとゆもんへうゝん法皇ハけゆ〳〵とてをとゝあとゝ万〇宇治集 改立 中 とてあそ

玉梓の系ゆとに志ゆへうむ物ん堂てまりゝん と成

ゆゝ

山家上 老見花

とつとに行をとうせあ——ひさゝ花ゆちつけぬ家ゆ物ゆ世

○家つと 万三 ○山つと 万七

久安百首 清輔

旅つとをとゝるゆ多ひとゆゝとゝあとゝとゝあつる高山思へむ

清輔集

世ゆハとゝ(ま)ゆとゝをもて空のつと成る君ふ家ゆ

○

つゞ　女隈　○ツボト通ス

和名抄

○著聞

つぼ　庭除

新六　かまいたちとも　信実　かまいたちなる物根かゝるの事侍るよ　待賢門院堀河集　やとちかふまゝ紀の中にさゝをとそつかはされたふへかりけり

○源　桐壷　○古本今昔十九廿四　鼻貪シクテ壷屋住

○今昔十九十九条　此壷屋ニ入テ壁ヨリ偏ケト流テ

イヘハ云ニ隨テ這入テ戸ヲ開テ壁ノ穴ヨ

リ偏ケバ○日日僧来リテ壷屋ヲ開ケレ

バ○同廿四条　後ノ壷屋ナトニ候ニヤト○同廿四条

鼻貪シクシテ壷屋住ニテ有ル者有ケリ

○東鑑　六被裁北面之壷　鎌倉市所ノナリ○

つぼ　端

拾遺雑賀　女もしもかくみつうれしる文のつまを引や

まて返てのせさりしはした

あしもあさうりゝきし山をふみまとしかとあ[illegible]

○

其つゝ

道つゝ　拾遺雜賀　○濱つゝ　同雜恋　○

三言

つゝむ　妻○今俗メシツカヒト云意

竹取　佛つゝみとおもひけるをやくやめよ　○源若菜上

むつゝ　ゐなかびたるぬさ　ゐなかみつゐあるゝ　多ひゝ人とも

と○中書トヲイヘリトモニ紫ノ上○竹取ノ方ニヨル女房之トモニ源氏ノ妻之

おれが身ハ世間にうゐまゝ作ゝもてつゝむ多まもる○同

つゝふつゝ　ゐのりる人を見るふるかやゐのかきもとに

ゝゝく堂にあゝさゝりる　○伊勢物語六十二段　人の國ゐ

まりる人ゐつゝもて　○同百三段　みたゐちのつゝむ

ゐひる人とあひ之まりる　○空穂　菱示云

ゐゝけにつゝ人もつゝハぬ人ゐ里○

其使

拾遺雜秋　藏人ゐにさゝふひる人の氷魚の使に出う

里りるゝ　○大和物語同　○源　菱未表　加茂祭之

んふつゝ

丈木せ立　平祐挙

別かゝちゝ浦のゝ里ゝ見ふゝてゝつゝ波のつゝむり

氷魚ー
祭女ー
波ー
公ー
引分ー
男ー
八十嶋ー

唐物一
家人一

○後拾遺三 おほやけつかへてあり内のうえ内のうえと
て○新古雑中 後白河院栖霞寺におはしまして
に駒曳の引分の使ありて家りうに定家○拾遺賀
てめて平野条に男使参て時うあへき事
世一 能宣 ○続世継内宴 今はじめたるあり
やそしまの つかひ ひとつ
○古今別 業平の後 ものつかひ
○敦忠集 ちかつかひ
つかひ ○公忠集 兼平五年十二月五日
使 花人 衛門尉 親盛う銭○朝

忠集十一月右兵衛尉 親盛 かりの使にいきあり
に○ 文徳紀三 散位 従四位下 藤原朝臣 岳守 兼
和五年出為 太宰少貳 因 検 校大唐商人貨物
適得元白詩筆奏 上 帝甚 悦 悦 授 従五位上○
万九 家人使

つうや

続詞戯咲 倚円仲 渝 かあちのみくさけ
におりて 縄 の下 つきて房をあちこち
ものとき いつ つうはし 俗 仏 件 渝

世とゝもや若うつうやをやふるなる今あハまきれる古元なる

○続世継 かさゝ 同

文永廿二 後れ

世くまのみ 五そろふまて本うくまのつやに学る初めの志ほらき

○

つゐみ

和名抄 唄 吐

○源 横笛 世を思い学ゝ

かきゝ ゝまひつ学ゝ れとゝ多へた○

つぐら

保憲女集

野山切まゆ学けふ元ふつゝ志のいくふゝ秋を今ゝ元ほゝん

○ゝ部ゝ ゝけ あをつゝを大れる志にふゝゝ○

づれ

栄花 玉のうきう 学ゝ 同ゝとつれゝおゝゝ陸奥 ○源 松風 元

けうちみつゐゝみふきう浦をほゐゝとうちゐう元つゝた

ちふきいへも○

つまゐも

和名抄 樺 食豆波利 ○字鏡 膜 豆波利 乃釜之 ○栄花 花山

三十五 清つむりとて手のもきちゝめきまりるに○金葉雜上

さゝ川のなぬ人のをてかくしてゝ見るゝぬるゝこてりうとと

ゝゝゝみゝる梅をおさせさり りまいを見る ゝゝ人ゝゝに

葉かれゝつゝゝとゝえゝほゝれゝたいゝみ樽よ初めゝゝか

敷水述懐百首中

つゝゝせゝふゝゝの山めゝゝゝふゝゝ過ゝきえぬ春きゝ雨

○つゝゝゝ 下ゝゝきゝゝつゝゝゝゝさえに侍て○谷川

氏云 衛張ノ意 梅ニ云ハ漬張ノ意 ○

つひ西

字鏡

○源蓬生 ゝゝあゝいさゝ

つひえゝと 待侘カ カトロヘ タルサマヲ云 ○金葉雜上 さゝ川のなぬ

人のをてかくゝゝ見るゝぬるゝこてりうとと

りまをを見る ゝゝ人ゝゝに

葉かれゝつゝゝとゝえゝゝゝゝたいゝみ梅よ初めゝゝか

つふさ 委

字部保 ゝゝけ えつふさゝゝゝえに

人丸集

ゝゝえゝゝつふさに 踊いゝえに ゝゝ 春のゝゝかゝいゝゝゝふん

○

つぼみ　未開花

新古

万代春上　後拾

白妙の花のつゆをぬきためにうけしいとは巣をはるらふ

○散木　可考

月詣集　円位法師

かくれゐつゆもと花をふるさとの風のまよみ散るらん

○山花集　同○

四言

つきこうみ　続紙　巻物ノ　河海枝　○続紙　江次第

源　梅枝　さはなるつきこうみは本とも見えていとをもしろ

ついでに○

つきはき　金葉下　肥仲女

ふるつきはき袋をせきうせあてやこうあいあらいさうす

○

つきうま

源　若菜下　たまかるつきうま里ある所のひとをとのめ

む○　巴歌一向ニ引切ノ　たとくの袋なり　○

つき山川 続松

続世継 ちあきまさのぶ つきやまかうてさうに出る〳〵

○東鑑 世六廿二 鎌倉中民居毎人用意置 続松

若夜討殺害又等出来之時者孰声面々取

松明可奔出之由被觸仰子保々○和名抄

○

つくま川

源須ヲ手枝つ松の里ハとをくてつくまつ

らせもや○河つくまを尋ハきみきのうへを彩ハるとも

之源氏のうまもうる名残彼輩にいろうさきやとこ○

源宿木 むらし花のもるる人ゑまつくまもうきと

ア〳〵○

つくろふ 療治

源若上 葉 かく雪めゝひかるゝおほるほとつくろひ

ちひてちくハれと○源 夕女 ○同浮舟清

風をくつくろをとく○うら葉 病気 一日 ア〳〵

て虫のうるゝ多りしかつくをまひしハ病おとひれ○里

にゝるまゝ〳〵ふとものやゝにあんつくをのふとナせて○

つけまめ 淺豆

宇つ保 菊宴 つけまめをむしきやあてにいれても

○

づしやか

源 椎本 志ろき薦やかみつしやかにかゝえなれと○弄 実なるえ○益 志ありうえ○源 若菜上 さとらつしやうなる人とおほせさるゝ人の 朧月夜ヲイヘリ ○同 柏木 つくくつしやかにハあるゝ称を 女三ヲイヘリ ○同 宿木 人の庭のつしやかなるにハさらなるもおほしみたらか 大君ヲ云○

つちはり 土針

万七廿三丁 わかやとにおふる土針こゝろゆもおもはぬ人のきぬにすらゆな

○和名抄 王孫

經信卿母集

つゆる チヽム シヽム

林葉五

○ 雪の色おきしものをとめふる雪ひとつよいろかつもる奈

○

つぐらう

字鏡肝 況俱反憂也張目之貝目夏々良加尓禎 ○文選 矍然 ○ 漂青ツ良可尓 夙異記下 四丁 ○常充 充山 四十二丁 そたに充も

つらうなるさほ〳〵しみて つれなきせなるものゝ 充山院ヲ

中奉ル 所之 ○大鏡五 忠義公条 比叡の門をもりうゝ

なりてしらてもりるほとゝ 堀川殿のめをつらうよ

さしをもうに

つふむ〳〵

拾遺雑賀 定文

ゐきくせをもてあはれとて まゝのつゐゐきをもるてあはれとき〳〵

○源 箒木 いまゝつふいきて ゑせほとゝ ○

つぶ〳〵 委曲

実方集

おもてにいとはなのつぶをいをあいもうんおをふんを

○遊糸日記 いうてつぶ〳〵といゐしるをのもうれて

○源宿木 つぶ〳〵といひつけのひて ○同女 りゝきを

つぶ〳〵とんなるかへと ○

つぶ〳〵

つゝも同答序 ゝをのうちうらもこゐみのをうはゑのり

[illegible]

つぼね　摘取　○ 瓜取

保憲女集

[illegible]

○

つぼね　瓜弾　河

源氏物語　つまゝゝ[illegible]

二条大武集

[illegible]

今撰集　後撰増後

[illegible]

○

つまもと　瓜本

[illegible]　春日語　つぼね[illegible]

○

つぼね　ハツルサマ之

源[illegible]　瓜[illegible]と　○ 同　小川あまえて瓜

[illegible]

○

つゆくさ　鴨頭草

枕冊子　みるゝ　[illegible]

堤中納言物語　漂女御　怡五君寄

散木

○小大君集長哥　家の家のいのちも身はきえて

○家物不　印さかの院下　ふきあげ　うゝの色のあをつゆくさにて遠

山ゝ　ぎゝ　○　おほくは月　ふるくも　雨　家　菓とをそう後俗家菓とゝ

鴨頭草ハ鴨　跖草ノ誤ヒ　○

つゆくさの

拾遺雑秋○頓集同○業苑　世六　左右のつゆくさ

源常髮　いとあひのき日ゐん　乃つゆくさにも落て

○花京中名跡記　鈎殿院号　六条院光孝

天皇の御所之六条東洞院にあり　今如院

にゝるハ六条院の鈎殿六条京極別の所之

○又引字津保　条使　可考

つるむき　鶴脛　○スワタカリカヽケタルヲ云鶴ノ足

ナカリアエムサマニナリラヘタルヘシ

字津保　菊　動きあひて　つるむきにて

しゝせまひて殿まてゝ　○金葉連哥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信徳 [illegible]

裏袴 桜 蹠或 被 祠鶴 脛 ○ 桜蹠ー眼の誤 今俗さくらと引あり又桜に

[illegible]

吾言

つゝむけり

栄花山カニ 大帷とゝつゝむけりけるひく ○今妄ヲメシツ

カイトイフ ニオナシ ○

つきかくて 俗ニイフツキノナキト云ヘ

後撰巻六 世の中に [illegible] あり [illegible] のつきかくてやみぬるものとなれば

拾遺巻一 [illegible] 巻之 [illegible] 月ハつりみ [illegible] [illegible]

○

つきのあと 月ゟ

栄花かゝやく夜つゝ 月の [illegible] あと ○ゟゝ保 国語上 [illegible]

月ゟゝさゝ [illegible] ○

つくりあや　契ヱトリカヤ

枝元一下八　くさはなをつくりおやとも　たちまちてくる○

つくりぬ

栄元月宴世六　いろくのつくりぬを花を植　○金葉雜下　橘の

つくりぬ○行取　つくりぬのえくにつけく○伊勢物

語　いろのつくり枝にきり枝つけく○竹取　翁よへ

てあの枝につけく○宇津保　吹上中　ぢんの枝に作り花

とつけて　海ゆくへありなくさやくれね

と　庶海　つくりぬ　○同　国譲上　やえ山

ふき出　つくり花ぬつけく

万十　玉　素の君　つくりぬ　世秋義　みまてあるぬ

文水十四　信実　鈴後　堂てゆくく　籬の菊　つくりぬ花ふりくれるやいみる

新六回

つゞあるぬ

宇川保　変示君　うしふいつゞあるに○

つくりぬ　九折

新六山さと紀家
此里につらゝゝ山ゝの山にかゝみとゝゝゝゝ人ゝゝ引き
六帖寺
さて引ゝゝゝ志賀の山路のつらゝゝゝゝ人ゝゝゝかまゝゝゝ
文水世四山寺鳥　高相
つらゝゝゝゝの中ゝゝゝゝゝゝみ堀ゝゝゝゝゝゝゝの声か
○

つゆすゝき

元ヨハタ〳〵トス

宮内保　斎使　おとゝつまもゝきをしてさいたい引き者に
もいまゝゝゝゝ○源　若菜下　つゆすゝきせゝゝゝゝゝ　柏木ヲニ給フ○
同元禅　初の人の心をつまもゝきゝゝつゝゝゝゝゝ　源ノ元服ヲナリ
○同　ゝゝゝ　せゝゝつけゝゝゝゝとつゆすゝきをゝゝゝ

いゝゝゝゝゝゝゝと式部をあゝゝゝみて○土佐日
記　日ゝゝゝゝ風やまゝゝつゆすゝゝゝゝゝゝゝ引ぬ○今昔
廿八八　後日夕无キノ言ヤトゝテ元ヨハタ〳〵トス
○東鑑十六　廿七　皆莫不彈指○

つゆすゝひ

異伝日記　内西すゝひゝゝ敬愛くあゝ男てゝゝ○

つゝゝゝ

中務日記　心も　つゝゝゝゝゝゝゝゝおゝゝゝゝ○

つるのうみ 鶴髪
尚歯会記 性阿上人 つるのうみうつくしきはいかにへ
のかせきの菀おほ

つるのち松
尚歯会記 清輔
つるのち松ゆきつるるひしうましさは志うあつりけれ志かのそのこゝ
○

六言

ついたちころ 初旬十日比迄をいふ
千載四 むつきのついたちころ○新古秋下 九月ついた
ちころ○栄花若 ついたちもまきあけたあやしく
おかしめ給ふ十日のひるつくさ○源 浮舟 むつきのつ
いたちころてうちころ○同 同 ついたち頃の夕月夜○同
夏のうちに四月のついたちころ 中略 七日の夕月夜新月の
うれしき○

つきの木 中通りノ人ノ所ト云家之
長明無名抄上 つきの木にそうてちかくは花菓くの家
乃舎此やうなるはかし○

月はやさ

策　月のはやさは人こゝ○極衣一りに月はやさは人

もいうてうた

つきをのうき

和名抄

身さえうきき者うとつをきく

○十六夜日記　を明月

後人のお月遊ゆやそつんうきうちきたるを時の身

文本十三

つちのさゝち

源氏ゆふ　ゆ地をきゝ人をこゝもつちをとりあつめさうけ

りとも市おゆる人いまゝにつちれるのゆちをする○極衣

一下十　をさゝをつる殿　ゆ人れとハをつちれうゝとさ

めきあへるを　○長恨寺傳顧尤右前後粉色如土

つちいもちを

源苦葉上　つきくの殿ゝ人ハをれさみゝらゝあしてゝき

はくつきいをもたはしうらしやうのおなしも○宇津保
國譲上 大臣とのゝ御方よりもうらなみきみ川ちいさもちたはせ
菓子入て○孟 椿の葉に入たる候之云 椿の葉を合
せて候の粉をあまつしをうけてつゝみたる也○

つべたはしく
遊糸日記 ふみありあきはしくつくえましとおもふ（ける）
も○源 柏木 きけたるやうにはぶしつめくましくて○ 河
つべしきれとやしの也○

つほさうぞく
源 葵 つほさうぞくなといふさましたる女ちらのいやしから
ぬや又あはれなる世をそむきけるなともおほくおもひ
て物見ぬいてたちも○同玉かつら つほさうぞくしたるは
しもかたのふるきはなき女ありちとそあり○河海
抄云 俊成卿女説云市女笠に落きぬきたる女をつ
ほさうぞくと云或説云斎院禊供奉人装束に川
ほそりと云たるを 市女笠に中おひしたる也○枕冊子廿段
かちありおほくある人はかりなるおもきのにはつほさうそく
ねともしてあまたきけさうしてもてきしう○同

みそらにきえのつほきそらにさる女のうきたちる○拾遺

雜春　春物へ出るりるにつほきそらにたりる女とも

の○拾遺秋　志賀の山さえにつるきそらにさる女

とも別るあるあり○江次第三　十五

つれ別る　六帖つま別る

年をへて行る我ミりん子りの比ふるつま別るの

新六雜草

支木廿三　池

七言

つきそめてとをとを

つきそめとおとを　万七　みそらゆくゆく月読　壯士

つくしの玉川

伊勢物語　ツクマノ神　ツクマノ数

あるる人つくしの玉川見せんつま別きの人のあとのうらみん

○拾遺雜京　初句いかにかも

拾遺　京五　ミヒ人万部

加茂ある人つくしの神のつくつくと京身ひとりみ山をつミて

菅万

六帖

続詞花 聯哥 別帥本 教長本
あき[illegible]の[illegible]ちもふる[illegible]神のまつりの[illegible]
後拾雑四 菱原弘綱
おほつ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
別季集 京
[illegible]の[illegible]の[illegible]に[illegible]
○続詞花 誹諧 つくばの歌

つ[illegible]みあるし[illegible]む 仏ニ藍染 ○イミシキチワサニ衣染ルヲイ
拾玉四四十
[illegible]

○

八言

つゞおほちの説 辻大路ノ説
落書 露頭序 つゝおほちの説う○大鏡おほちよみち 住
来 [illegible]

つゝむつきこ
後拾春上 つゝむつきこ[illegible]
[illegible]と○続世継 鳥羽 御賀 つゝみのこう 北九ヲイヘリ
源 夢雲 [illegible]
[illegible] 中畧 つゝ[illegible] 中畧
に○源 浄法 紫上 ○源 椎本 [illegible]

きとりのり（イクツト云ナシ）○第九（せう）の定子（廿五）○拾芥

拙八卦部 厄年（十三 廿五 廿七 四十九 六十一 七十三 八十五 九十九）○大鏡 序○昊

枢十八

つゆのあつ

拾遺 負外上 四十○

つるむきの衣

万七

○続世継（まろ〳〵のまき）つるむきの衣ハ王の四位の色なり

あ〳〵人の四位と王の六位とハ黒緋をき

十二言

つきの山あき〳〵にあるあ〳〵 小説書 懐下四分解

栄花 花山巻末 あきはぎ きてみもつきの山きよるへ〳〵○

落〳〵 一巻末 二の巻 うてさとくもあんへうめるとそ

ある ○堤中納言 むしめりる姫君巻末 うことの元ろい

てうへうぬ色り二の巻ハあるへ〳〵○

十八言

つちをうみ天をあらうあうを生ずるほと

竹取

手跡
男手
女手
手習
草
日本一
タヾイモ

ての部

一言

てテ。書

漢書郊祀志天子識其手注師古云牛謂所書手
跡○字類保光その加きて書く也光る布をさて
男手も女手も別ち侍り也○源橋枝女々をん
小いまつ別ち云さうなさるもの別きくるおかしつ
光る中に○王充論衡十二程我篇七下文吏幼則筆
墨手習云云○大鏡三さらぬ日本一の博士の光
へ以後てをうつしう佐理卷に神ノ先ヲウケテ額カク○月月経任君北

扨上大戴におそれ入女をきておそれ入○源 梅枝さ
うのもの多れも女をいみ〳〵うきつゝ〳〵○同日
おほゝ〻ゝ女をれうゝ〳〵○同日みさゝれうさう
のゝ方と筆におそきくみ多れうきゝ〻ゝさゝ

手て某

和 白絲布 天都久利乃沼乃 ○手長 東鑑四十三十七御沓手
長御幣手長○今昔十九二条 今日之春會ニハ
手長不可入只前ニ居タル所ノ鉢其ヲ各令
飛テ僧供ヲハ可請キ也○愚管五 法性寺

一ツクリヌノ
一長
一ハシメ
一殺
一戯
一答
一ほゝゑ
一国

一迷
一使
一引
一喚
一フリ

あゝ世〳〵一向よそ〳〵さ〳〵せ〳〵ま〳〵後らまゝゝゝを
めゝゝの大内遣ゝの〳〵を先ゝさ〳〵せんと企〳〵ま〳〵ゝる
と世〳〵ゝ〳〵ゝ○今昔廿三 光遠クニ已ヲハ手
殺ニ殺テム物ヲ○日日 手戯レ為ルニ取
タル肱ヲ強ク被取ヌレハ ○盛衰記十
六兵破ト云 鏑ヲ取テ番ヒ 兵ト 射ルヒイ
フツトチ答ミテ○源 蛍 弟を引けゝゝゝゝをおとゝ
ルとをみゝゝて 競馬ニイヘリ○今昔廿六五 例ハ極〳〵手間
ホテ此様ノ者ハハツスフモ无リテルニ○手迷 今昔廿七十二
○手使 日廿七 世八

[illegible]

○江次第二大臣　居餓飢　或大納言中納言　参議兵
地下五位尊者　人手長　○　同　二　孟　旬　拱云此日有御遊者出
居　召琴　云書司御手　喚（ナラン）
万五
あ　はさうる云ふあはい川とせたまひつゝ[illegible]の提主利とひとえ
丈水世五　信実
弟にあへるおとゝ[illegible]のをちてゝとおきへゝ[illegible]つま
○東鑑　廿四十　當時　鄰内不及手廣之間無侍○

二言

てゝ父

てゝ君
おほてゝ

宇治係　条使　てゝき[illegible]人ゝあきけ[illegible]○栄花月　妄
[illegible]○同衣珠　おほてゝうおもゝまゝけ
[illegible]○大和物語　てもものうれ[illegible]ゝ[illegible]人なりけ[illegible]

てゝ○

てふ　テフト　イフ　アラスシテ虚辭ニ用ヒシテフ
万代京二　家集可考
[illegible]
堀百泉　邑房
[illegible]

○枕冊子

トイフヲ　テラトツカヒシ文

竹取　かぐや　姫　大ぬし人のやりう

てほん　手間

六帖　八雲御いつもの図のてほんの関ハなるてほんを若むらさきん

堀百九月尽　師頼　さくらもと見ハ八雲御てほんの関ハ秋ハ見しる

文　木世三　紫式部

出居　テ井

金葉雑上　公実々のもとに出居うせりけるに侍さう

りまた出居ふおき侍りける小弓を見て　○源

東屋　出居ふとの侍てゐ　巳世外様むき○

三言

ものいり

水鏡　敏達　太子さきに世の事のおほえ給るをヤ

とヤのひ時ハ御門をむ先ハ事て少人をう

ちあきみヤき○今昔十六廿八条　此ハ何カセント為

トイヘ氏甲　斐ナリテ死畢ヌレハキヲ折テ注許

思テ○大鏡一荒山寺をおもしろくしたく
とゝりの○おうりの　比女をうちてあうおもと
にきそおもしろきなり　三条カ右近ヲ見テ云ナリ○

てゝゝ　調度

拾遺雑恋　ほとゝぎすてゝゝとをたもうゝ侍られ
も○今昔廿六十七　利仁カ共ニモ調度カケ一人舎
人男一人ッ有ケル○

てか〳〵　チニテシカタヲシテヲシフルム

源柏木　ゆちせんゝ〳〵ありみ是をいそさもひ祈と
ゑうきゆゑ〳〵ふ○今昔廿八世走ゝトチ掻テ遣
ッ○

てうゑ　チ飼
拾玉一
朝夕に指ゆゝ〳〵むゝ〳〵の子ゑ〳〵ゆ〳〵ゝ山遊の里
○

てさを　チ棹
嚴嶋詣記
さをかゝるふなるとさつなる友舟のあまの友棹ハ波ゆゝ〳〵

て多りてうりの訛う。今俗テタレト云

長明無名上 後德大寺のおとゝいたゞきて多

りあつておきせ〜うゞ

てづ 俗ニづうミジカシナド云ト同シクてマルノ

ツヾト同語ニテ音使ニテアルヒい上或い下又

い上下トモニモニゴル也 思フトコロマテ行ト

トカ又意ナリ てい様也

紫日記 いちとりふをどを堂にうきゐ多〜作ゐいとてづ

にあさ〜〜作りうゝ。続世継 みちの雲 日ぞいかゝ〜〜て

いりぬる國ゝ。新撰字記云 織紙裁縫 甚以手筒也。菓花 こまもて 美

あれていり関白のあ人ゝうれあるゝを。

てゑびき

菓花音乐 てゑびきかゝおとゝまて殿すゝおとゝせ

めゝゝふ。円 御裳 著 伊車い陣ゝうきおろしてて

ゑびきあていゝせめゝふ。今イフテヲヒカレテ行玉フニヤ。

てふまき 手振

[illegible]○

御本

手本（テホン）

後拾雑五　一条院御時大蔵卿理つくしに侍りけるに御[illegible]○源[illegible]

[illegible]○後撰賀　御本（ミテ）にすりてとて

○[illegible]保国上讃　我君よとて[illegible]本ありけるし○

源　梅枝

四言

手足駄（テアシダ）

今昔十六廿条長高キ童ノ痩タルカ賤キ布衣一ヲ着テ手足駄ヲ履テ裸ニシテ被賀ケ未死モ不畢ヲ勤ク○平足駄ノ訛カ○

てかゝみ　手搦

空穂　後原君　[illegible]

手枝（テバラヒ）

[illegible]ル時ノサマ

梅窓筆記云小解除手稜ト云フ日次記ニアル
ハ假初ニハラヒヲスルフナルヘシ尤經記長
元九年五月十九日中暑以御冐一斛許奉納茶椀
壺畢関白相府以下帰路云云於鴨可乍車手稜
只以草人形不備祭物又尤縁葬作法記云民部卿記云
々帰時取近辺草カキワケテ懐之渡河水之時
面ヲ以草カキ撫テ流之是名手稜弃畢白杖
同弃畢或日記云於水使所出解除以人形撫之
弃川畢○

長點
短點
合點

てんあひ 合點
十六夜日記十八首にてんあひなる○玉勝間十斤点
諸点家隆々の加まてるるあにてんてん○東鑑四十六云
喜二年四月十八日武州中下供奉人御點被遺
越後守之許牧野太郎兵衛為中使云云右御
點布衣尤長點隨兵短點帯劔云云コレハ哥ニアラヌトモ
長點短點ノコトハ同義也　同五十一ナニ十首和歌為
合點○

田樂テンカク

大ー
田舞
芝ー
田鼓
サヽウ
高柏子
杁
ニツ物三ツ物

続世継 物あはせ 永長元年中暑 [illegible]おかんう[illegible]
[illegible]みちしさうあへ須神のやしろ[illegible]
[illegible]○続紀十四天平十四年十 六日御
大安殿宴群臣酒酣奏五節田舞畢○増鏡 老浪
田樂とうやうあやしの法師共 名をも其
駒とゝう○東鑑世六廿七 ○盛裏記四心中ニ三
ノ沛願アリ中暑 二ハ五人之姫君ニ御前ニテ
芝田樂躍ラセテ可奉見ト也 ○今昔廿八七白
裝束ノ男共ノ馬ニ乗タル或ハヒタ黒ナル
鼓ヲ腰ニ結付テ社ヨリ低ヲ取出シテ左右
ノ手ヲ桙ヲ持タリ或ハ笛ヲ吹高柏子ヲ突キサ
ヽラヲ突キ杁ヲ差テ様々ノ田樂ヲ二ツ物三ツ
物ニ儲テ打喧リ吹ツレツヽ狂フ了无限 ○
堂充御嘗著
○古事談
○洛陽田樂記

[illegible]むう[illegible]
今昔十六廿条皆如此メ被取タル者共ナシハ
手迎ヘセントト不思 ○盛裏記ニ其庭ニシテ手
向スヘキニ臆病ノ至リカ ○今昔廿五三何事

二付テモ手向ヘシテンヤ○同廿八十五　手向ナ為リ

○

てんさん　鈿盞

思俗日記　石清水原時祭の条　みさんてんさんの義

○

てもとあ　手モ　数ノ傳語　本居氏説見畧

万八紀女郎　解八十五丁

てもとあけつかもとあるをとめけつつをかためてたえせめ

同　同　もとあふうたしまさきやうてていうまとるもあるをつくきん

○

五言

をのかきり

今昔廿十条　手ノ限リヨシヘント思ヒテ○本願

扶忘念をえりえるやうをまて修多

啄木鳥（テラツキ）

盛裏記十　太子佛法最初ノ天王寺ヲ建立シ給

タリケル二守屋カ怨灵彼伽藍ヲ滅シンカ為

ニ数千万万羽ノ啄木鳥ト成テ堂舎ヲツキ亡サ
ントシケルニ太子ハ鷹ト変シテカレヲ降伏
シ給ケリサレハ今ノ世マテモ天王寺ニハ啄
木鳥ノ来ルヿナシトイヘリ

寺をうみ

詞花集 東山に百寺をうみ[illegible]
[illegible]
後撰雑一 法皇寺免[illegible]
[illegible]
○袖中十八 西山の寺免[illegible]に遍照寺に行て
○第花御賀 [illegible]七大寺免[illegible]○

寺免[illegible]

[illegible]
源 幕木 [illegible]氏人の高ふと[illegible]○同まつむ多
[illegible]大[illegible]の[illegible]物[illegible]の[illegible]に白[illegible]
めとなんみゆる○

[illegible]

源 多[illegible]山[illegible]て○[illegible]保 楼上下 [illegible]
[illegible]に[illegible]を[illegible]ハ○盛裏記四 社宮神女
等チヲ加声ヲ挙テ関白殿ヲ无唯シヲル○

今昔十九（十七）条　御筆ヲ手和ニ遊ハシケル程ニ此ノ人々ノ参リタリケレハ○同廿八三後ニ立テ近次テ手ヲ叩テ咲フ○

てを祝ふる　自得貌

今昔廿八（四十二）眼ヲ掻テ手ヲ舐テ○同廿九六手ヲ舐テ得ケリ○

六言

丁子（テウシ）かゝら

今物語　連歌　こもり史ハあきこのみこそみくまの　堺川

てゝかりの香やみちのくん　兵衛　○西京雑記

てかくもうまそ　チノトヽクホト　チカキヲ云

後拾遺　詠諧　雲井みていうてくあつきと　天合座主源心　ヒ考ヽ

みてかくもうまれるかきる

樵衣四

名をてゝと人をのめ　ハ考ヽ

佛去抵

めてうきてをにてうもうまれ　ハ考ヽ

○

てゝやもはや

栄花 月宴 世六

蝶とゝまるほどもなくうれぬ

花ふつけても今はゝ〇同 五十六カ

てんつうゝ 枇杷ノ言

源 若菜下

人にてんつうゝきゝふる由はいせと

七言

文ゝ足ゝ

竹取 又ゝ人ゝの文ゝあるゝさけおろ

あてすりは〇

てまゝほゝ

弁内侍日記 今出川殿へ行幸ありけ

み侍ゝみゝ魚のくひを七人まゐせらるゝ侍

まてみ申人てまゝ日のてゝ由ふてみてあゝを

いゝもか侍 内侍ゝ侍ゝ人ゝ侍しうさと

いてゝゝ代皮ゝ由ふきゝしゝて行ゝまゝしみあ

ゝみあるへゝも おほえゝつゝ行みかつまゝみゝ侍し

ういゝとゝゝ人ゝまひゝゝとゝ 弁内侍

かちゝとゝるゝ毋人ゝみあゝぬ月のあはの日ゝをいゝゝみゝん

○

八言

帳にかのつくる

栄花もんの こやハ御帳てあらひをまうせうのしく御帳の文も

にむかひつけさせ給へりけるを○宇津保蔵開 御丁の

すゝらおほへる 堂ちかくまゐるを○源氏 ちうまもて

の文もみさしのおとの御帳にさしれろうもけちんたもけ

あくらちとけ給ひうき海はらへりけるほてらえてく○かけうふ

あをつかちもこむ

竹取 これあをつかちてもとえなれとも○大和物語

あをあつちて求めさせ給へり○栄花 こまくらの巻

おもち御帳まへのそのありさまハこれあへいさみみ志おうせ

おいとあをその まかりのおとにあれとも 狭衣あま

あしくてあをあつのあせ給へ○

九言

天子（テンシ）かしこまつせん

空穂 印本 物 秋上

花本 仲津 白波

天子かしこまとせんとい御事ハなき

世人とさそ号ふるめ○

十二言

をのやりかたの事物

方丈記 今一刃を分ちて二ツ用を用ひをのやりかた

是の事物 くくり心みうれへ事○

との部

二言

とか所ノ畧之

隆信集 皆冠 ちうきとか かくてあり 是ちるはて

同集 亥一 悲 亥 あくうるくんの多れうまつあやむたちうの美みうあるくん

○うるはくうを 美くたれまてみ りるとちの出たこう

にれん○

とか 獨鈷

金葉雑上 僧正行尊 はるる はるてちるを はりて つとをて

[illegible] 獨 [illegible] 返 [illegible] 大納言宗通

[illegible] 旅の [illegible] 知 [illegible] 今 [illegible]

○

とめ [illegible] 殿をさして殿と云

袂衣一下 十五 袂衣ヲイヘリ ○

三言

とうけ

万八 [illegible] 今もあらぬや [illegible]

○縣居説本後ナリ本ハ木ノ丁ナリ サレハ木後意ナリ宣長云トカケハタヲカケナリ

○

とた 祇 床 寢

新訓 泉式部 [illegible] 祇 [illegible] 祇 [illegible]

ヨトコヲ

○長明無名抄下

[illegible] 祇 [illegible]

後撰 [illegible] 祇 [illegible]

○

とち志

曽丹集九月上

[illegible]

万代秋下同

○

とさろ　草蘚

拾遺雑春　賀朝法師

春の野ふとさろもとむ[illegible]

返し　[illegible]

とゝみ

源女　[illegible]

○源注拾遺　委注　○玉うり法

[illegible]

新六つる　信実

[illegible]

○

とのゝ

拾遺恋　茅上

[illegible]

拾遺　負外下廿四

ちふさ　冠辞考

後拾遺哀三　祭主帥親

我ゆふさはの花のちふさ雪もちりぬあしし

○

とほう　蜻蛉

袖中三十一　あきつは蜻蛉○著明蹴鞠我一期に此

こんほうとうとう一きいと　○東方ノ傳音ナルヘシ　○

とほ免遠眼

演松中納言

ちるはなみ咲ちる雪とうつるハ梅咲山の遠目なりけり

風葉集哀五　あるかなきかぬ女院は寄

春を待て霞ぬ山桜いろはるをうつす遠免なるらん

兼輔集

霞免ぬ峯やいかくと尋らん花の遠目を春きてもかな

文太廿七　花山院

小倉山ちるはなみ雲ゐの遠目の多の後生

久安百首　親隆

桜咲くもの山遠ハとほ免といつまもちるの多の後生

○東遊譜　於保比礼

大さヒレヤヨヒレノヤマ

ハヤヨリテコリヨリテコリヤマハヨラナレ

ヤトハメハアレト○縣居云遠妻也　○桜スルニ遠目也

○

こゆせ 泊瀬 ヲヨミアヤマレルこ

新続古冬
夕されは浦風さむし あまや舟こゆせの山に雪は降らし
万代冬

こ里の

源姿 こまかのてつきいみしう〇河箏の取由也〇

左ノ手ニテ箏ヲ緒ヲオシアツカフヲ云〇

さゝる

源梅枝 乗へみおりしきたちはなりてすそうきいへ乱 ふと

くありしきえ〇花鳥なりてこ乗なりては昔ふく

里ゐ乱かなりては今みなりこし〇

四言

さうらい 東礼

忠信日記 裏はさうらい〇

こゑり 松十返

新朗 帝王聖花万年春 徳是北辰椿葉之影再

改尊猶南面松花之色十返

榮花　素下枝
住吉の神の去るゝ日雲の代に加へて却ひろはて
○

ときあり　半時

士御門通親公嚴嶋御幸記あるを略して時あうた
うり後のみ　ゝ元　○

ときあり
万代神祇　上已校　中納言定頼
ときはなる松もいそのしみそをきあはゆふ名ある神はめ給へん
○

ときあり　時メリ
清輔々集
空あるゝ時あるゝ月ときゝ　□　れも雲あるきてそ明むる
○

ゝくせん　得選
枕冊子十　せ七　今はゝくきんをのせんゝゝつる　○禁秘
抄云凡於車寄乘車女房近代例也況得選不
可然事也行幸走　内侍回車既聽之近代事也
○中務内侍日記　餐あけのゝくせんまゝけあれを

車のちりふのちり〳〵○江次第抄云得選者御厨子所
女官也於采女中選其人故得此名○禁秘抄云得
選三人髪上采女兼之云云○

さたもう

林葉六
いまは昔若小さきものを西行のもとへつかはしたりけるに
○今俗年ノ始ニ三河ヨリ万歳トテクル者ノイハイコトバニ徳若ニ御万歳トハ云トウタフハ此常盤ノ訛レルナルベシ○

ちりはし　年越

ちりはし

山家上　雅俊に
にちりはしみたりあるよ○円下四十一清水
みちのみはしりていてゝ之し
実木十八集著信実
おりくのかなまんとふ花何の年ぞいあるもとゝよ
○

ちりはし　年次
万代賀　匡房
八百万ちよもの神のちりはしはみるもかなしの侍代の事
○

とのゝ人

添須ノ　かゝる　たゝしなとの人　ゆきた○

飛梅（トビウメ）

沙石集五　安樂寺の飛梅を

ゝみゝつき　古說稲ヲ云ヒ

松冊子　あゝゝきゝの　あゝ　さいあるゝみきゝ　花ゝゝ

いゝゝも　云云　上文ニ係ル　試樂　○栄　花日ゝのゝ

大嘗　會　悠紀方　樂の急ゝ　金山を　佛親

ゝ山ゝかゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

○大院　一条院の時　陸奥　ゝ山ゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

みゝゝさの　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

相撲集　第根ヲ　ゝゝゝ

御山ゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

日

我宿の　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

後成ノ　九十賀記　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

○詞花雜下　後冷泉院　御時　大嘗　會　主基　方

御屏風に　伯耆國　ゝ倉山に　ゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

うちむきてゝゝゝ　山ゝ　橫おゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

丈木廿家集　奈主　補記　与茶花同

[illegible]

日七早苗　家集　人九

[illegible]

○催馬楽　志須夜乃小菅本　志川夜乃已須久

加万毛映加　良波牧　比牟夜已須久放比牟夜於

比牟夜已須久未　安女奈留比波利ヶ利已夜

比波利止見久佐毛知天○愚安集　[illegible]

ハ稲を[illegible]○古本風俗哥荒田　安良左仁

於不留止見久佐乃波奈天仁川見礼天見也

戸末井良牟奈加川左衣○神遊考　志都夜

乃小菅注可考○

丈木二　仲志　竹

[illegible]

頼政集

[illegible]

丈木雑六　信実

[illegible]

為志百首

[illegible]

後拾遺上　[illegible]

保後後　[illegible]

こうりき 取次

法慎公集 こうつきかたい 山つきくのむすめ堂ち

かたてしかいろう ○

こうをり トりハヤスこ

師光集 賀茂重保

神山の岸のさうきをとりもちく岸のゆをゆ[illegible]れ

○源 鎗 おろしくれさるこうをもておやめきゆへゆ

○同 事法 大 將の君かんこうをちくつうゆつりたい

りなり ○

こをつく 十行

壊嚢十 十つくよ角川こりこ今文にさうこうこう意もありかん

支木ヒセ こをつくの馬かくれ[illegible]ゆ東しおとみこ岸をの外

○支木九位云ひ弓ハ多の日あるきん多ちの的のこと

を車の帰よつくこうをこをめる 兼縄中將ノ祭ノ使ノ時 和泉式部

カヨミテヤレルナリ ○ 江次第 春日祭 枕云上卿相具神馬

十死 謂楽也

支木ヒセ 為家 ゆ早振神の岸ふしを引けこ今日ハ左かこをいくの馬

○源 こをつくこ かくしくをつくかとさここをもの之こと

ちをえらむ　さうの　○花鳥十つらいの東遊の舞人十
人ゐるみのうへ裳束い青ゐとしふねをきく弥社の行
幸関白の賀茂表日陰仏とみ君見しを社所あて
求子仏とまひうへの後馬場あて馬をとりうの名
とれ沓い左右の近衛の宴人長をつとむ八幡臨時の
祭仏とみい殿上の雲客舞人多り源氏君注名
おうてあも楽人十列を見しぬへうの成へし

五言

ときはうへ　其時ニナリテ之

落くほ四廿七　叔時仏りて暁みいとき多ちて　○栄花　伐
ここき仏りて○同　ここの月　ゑ日仏りて○

ときはうへ　刻伐（トキノクヒ）
新六左門の月　ゑうへ左ゑみ月の内一ゑ左うすむゑのときはふへ外
支水

○新勅物名　ときはふへ
いさ法おと法

ときの人

○讃岐日記　時のふぐはく

トキニオハシマス

トキナリケル人

トキメキ

栄花花山十一 ときふおそしまた○宇都母まさを大の文を
雨いあるそのときあれ人を○日爰系君 いとうちきとき乳
人ゆて○源 下若菜 いと時の人を○古今雜下 時ゆりける
人の傾り時あくありて 歌くとそそ○大和物
語 源草のみうとゆ中清時良お将とを人いみしき
時ゆてをり○源相夏 やんとゆきさそあいあるめう
ときれときき発き まふをり
川の文春のうやもの発をん時うしゆる山うりみして
ととうふいつれとなきをの物もいそさるめ時ゆぬ
○増鏡 うの雪 時のをとゆまてあるしうる世きおほ

きおとゆ○

こうるをし 解由

日本紀竟宴哥

○顕昭集 こうるをしやんふるつきみをき 勘解由長官

○

そのへて

袖中二サカ そのへて形ふふりる ○宇都保 ミーケ

そのへれとゆ時み コレハ悪リ・調子ヲトヽノフ

リ ルナ ○菜花 音〻 とありて右そのへにゆくひつき

○同 玉臺 おのし雨にはなごてのゑみ備し

後拾雑四
とのへし賀茂の社のゆふだすきかへるあしたそみだれたりける

金葉冬
おほくはとのへにふけあやめぞさみだれふりはたりてすまじ

○

とのいもの 未詳

さぶらひどき 同じき帰時 後鳥羽 とのいもの百ぬう

けそのしたりも 定家たゝハ四十ニしきへ堂る とそ 日記

みもまへる○

トノ井衣
トノ井モノ
トノ井スカタ
長宿直
大宿直

とのゐ人

源 椎ヶ本 とてさぶらひしとのゐ人そ○清輔尚歯會記

次に家門のかたへ藤原〻とのゐさぬみかふりあをみそ

のさしぬき之 云〻 コレハ直衣ナリ ○源 後テ多ひのかたとのゐ

とのゐてさしくて○日日 ひろきひさしまへ雨ふりて

いまをあきさふらくとれぬかたくしもきかしうて 衣ノ装束

スカタ ○金葉雑上 前斎院伊勢にこころとのゐとて

料のきぬをうりけり○源 紀貞 とのゐ姿 ○今昔廿四

近江国より長宿直ト云フニ當リテ郡司ノ

子ナル若キ男ノ上リタルケルカ○頼政集

大内守護 ゆうさ 廣之 ものさはぬ事と思ひぬれ

ゆうさ 比沙幸 ゆうさ 作ゆうみ 大宿直 ゆうさ 白ゆみ かうれ

ゆうさ 作ゆうみ 月のあうるもうれし 冊後の内侍のすけ

つかいしきる

人きれぬ方山の山をうい 本うれてのこ月をみるかう

○枕冊子 廿八 ゆうさ みるもうれし 作もうれうれ ゆうさ

ゆうみ おもう 侍て○

ゆうさ

拾遺愚草下一ウ ○同下 廿七 ○同負外 五ウ ○

こへたえに

隆信集 玄四

こへたえにこそ 初ほうとぎす 鳴かなくや 人い 思ひきえぬん

○

こほ ちろ〜 ハツキリトシタル ちろ ○大小魚 神代記

玉勝間

にのこ こそ やみ ぬん うい〜 きやそ 海の山の峯の白雲

○長明無名抄下に こそ

哥を評して云ふ

山てらみう彼方にゆかん　○続世継　むさしの国侍車のうた

さそきらん　かりはこゝにほろくゝ行くらん

○

拾遺新秋　人丸

秋の野に　草の露　ほろくゝと　なにをかこちて　ながめ

○

山家集

ながらへて　みるにつけても　あはれとは　月のうちとも　思はぬ

後拾遺　雙　道命法師

ほのぐゝと　ひかりをあらそ　色をきく　ゆをあはせとは　人のとはまし

山家集

きゝつゝ　多ひをてつゝ　しをなみそとるさかりき　山のこゝろ　ぬあい

寂然　集

月影を　神に移して　みるなれば　人のこゝろ　ぬ　ぬる

詞花集　永原法師

やへむぐら　ちけ　なる　宿いらも　ぬこゝろ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

○

六言

とかくの　ちき　葬　礼

山家集下　鳥辺野にて

ちらう　○　日　とかくの　ちきを　鳥辺野　ぬ　ぬ　ぬ　○　業花

月妄 廿六 二日 あらてとかくしきんとなりしかさて
あらに○

こゝろ常あへ 所違
源爰 こゝろあへんに○檜十廿 所あへ
ゆゝて○

こゝろあるへ 尚齒舍 垣下云
をらくの年あへのうちもれていとをたひたのふるりふるも
○

こゝろのあるし 万代春上 志元
春霞あけてゆくかすみをむすへりてとあるとあり所ん
○

ものあいの御名 山家集下 唱念仏
ものきもるこう移の初きみうちをへくく十度の御名を唱へかか
拾玉集二
祈りをいのみあれ身をあらてをあへんあるもあるふり
○

文選向秀思旧賦序 鄰人有吹笛者発声寥亮

堀百懐旧

みし宿の庭は淺ちゝあれはよりゝ澤の笛の高てゝ

千雑下 心覚法師

笛竹のうちてゝ行ゝ思ひ人 陳

○新朗秋夜 梁鶏栖而遅唱笛吹向子期之隣 安名

六百委茅留 意

ゝ行ゝの移へ 未詳

続詞戯咲

千意一成通

つゝめとも堂之内思ひ放ちれたゝ行ゝのせ西行ゝさうれ

壬二集上

ゝ行ゝ我ゝ行ゝ捨てなくさもれあゝまゝちの音ゝ行ゝ

○源夢 あさゝ月ゝ行ゝ行ゝの音ゝ行ゝ行ゝ行ゝ

○曽丹集 長哥 元云

新古意

堀百萩 国信

ゝゝのあゝゝ

万代神祇　兼和大嘗會悠紀方美濃国風俗哥

[illegible]
[illegible]
[illegible]

金葉賀　悠紀方の朝日の里の[illegible]敦忠
[illegible]

続千賀　主殿大嘗會舞之云
我君の千とせの影をうつす山豊のあらうみみるうらなしさ

○

とをみくら

万代哥
神まつる[illegible]

○

とををうの免

拾遺神楽哥
みてぐらはとりあはせたる天みまはをうの姫のうみのうてぐら
源[illegible]
天みまはをうの姫の[illegible]

神楽譜
世つ石いはしくのつたをそ天みまはをうの姫の神の枝なり

清輔集
曇なき雨はらの月やあをみまはをうの姫の撓[illegible]

実方集
何とてか豊をうの姫をいのるまし[illegible]
丈木二　後鳥羽院
あをみまはをうの[illegible]

日七　家隆
神[illegible]

万代神祇

壬二十七ウ

ことをの多とく

拾玉四　法華経第五品寂為第一

星は井にさやけき月の光らうさしてそゝろ多き十の多とく

○

とをの詞里　十禅師

拾玉四

百草の花と奉るとて奉る七社神の十の詞里に

○契仲云　近找集と云ものゆ十の詞里ふ指定云

と必へとそれいけ方をとらくゝ詞里

文永廿四神祇　信成々日吉社令社記名　後二位家隆

あ里とゝ十の詞里ゝ加茂ゝ　ゝ見れ方ゝ通めと

○

七言

とゝらせゝ人

ゝゝ花ゝ月ゝ方ゝ　花揚

清輔集

あ月の方ゝ清輔ゝ通ゝ花ゝ月ゝ方ゝ今ゝ燈ゝを

○

[illegible]

玉勝間十一陸奥の半とも[illegible]高城郡に利府村といふを仙基[illegible]原町通て三里廿八丁[illegible]利府村の[illegible]高野村[illegible]ふが薗とて笹薗あり其村の田の中に二三百畳[illegible]ばかり[illegible]里の百性園[illegible]の命[illegible]て領り[illegible]古[illegible]玉篠に霧[illegible]しら[illegible]笹[illegible]

袖中十八

金葉集 経信

鶴の[illegible]枕[illegible]ふの萱[illegible]

○

とものみやの人

栄花 初花

おほ[illegible]ふの萱[illegible]

後拾雑五

続後撰雑上

[illegible]

後拾 詞 譜 能因

[illegible]度の[illegible]里の[illegible]

○トヨウレハ（ナヨト）ヨウレトイフ　契説

ニテトハカリリトニオナシ　拠説　並誤

八言

ときを西門にまかり　倍終

栄花　花山三十七　ときをまいりもりけ申あり　さぶらひ

ことうあけの役　褰帳役

三代紀一天安二年十一月十一日戊辰無位坂子女王重子女王並授従四位下是褰帳之女王也允天皇即位之日擇王氏女有容儀者二人充褰帳之職因而賜爵他皆效此　○玉賀今上御即位の時大納言三位ことうあけ

つゝ給へ〳〵上階し〳〵て侍りし〳〵時つうたゝ〳〵る入道殿大臣

こゝるみつ〳〵雲のことうをかくとそのかるみたれうゑ〻ゑ

○中幣日記　ことうあけのやくい伯の三位のむすめ侍り

○讃岐日記　大納言此名のことうあけしる　○

十二言

ことし〳〵火をかゝるちから

山家下無考　ことし〳〵火のかゝけちゝ〻侍りてこゝ侍る光を待ひ多年

千載

○

語林類葉巻之十二

奈行

なの部

一言

清水濱臣輯

名

拾遺雑賀 子をもとみまくとつけて 下畧 元亨 ○栄花 みたてぬ

玉葉十三下 里おとこ ○住吉太大臣殿のもとゆみそなへ

といふものゝ中に おとゝ殿 くゝ殿 ちんせんとふ

女房なり ○竹取 そつ名 ハほうらいといふ 仙女名也

○続世継 ゆミの弦 自他君と引ハかつけ文 里○同 淀川の

仏ものき

あ免つちとりふ母房の○同かさり多ち いもを祝緒 あや
きもを弓ゝ君 ○同むさゝの糸 百良ゝ名 摩庄君 ○金葉
亥下 中海ひちそとりふ ちゝ多そのあり ○巣花ほとのりく
一品の文北侍方の弓ゝもゝ人をかゝきやさゝゝきちゑき
きおほきゝめて多き仏とさゆゝつけさせゝふ ○画人
常則 源 栄花賀三ウ 元ゝ堂が巣 ゝり志け 巣 ○実方集 名
ハ名 せき ちゝの ○同 堂りや 下仕女 ○同 ちそきゝ ○袋十
子壬生太尼 幼名 おさき ○ゝゝまゝゝき いもを祝緒 続世
継 宇治の川風 ○

夜ナキ
コヒナキ
ヨロコヒナキ
童ナキ
古ナキ

二言

ちぎ 海ニイハスシテ空ニイヘリ ○風ニハ常ニイフ
万代釋教 色即是空々即是色 皇后門院別當
雲も仏ゝちきゝゝゝ あきみとりむ仏きゝゝと今そ志ゝゝ
○

菓実 ナニナキ
万十二
ゝうせちにちふとゆゝ みとりきの彩仏きせゝゝゝ祈ゝゝゝ
○保憲女集 詞 人ちれぬ亥仏きゆゝ ○続世継 花の
ゝゝちひの仏ゝゝ ○今昔廿五十 童注ニナクハ糸
嗚呼ナルナニハ非スヤ ○同廿八 マメヤカニ六

借ラセ給ヒケレハ殿上人共皆舌実ヲシテ此
ヨリ後ハ不咲マシキ由ヲ云契テケリ○源
実二郎と実の内ちろちいかきさへ申しきは
て立さりき○夫木世五○

ハシタナリ
イワケナリ
ウシロメタナリ
ユタリナリ
冥加ナリ
イトケナリ
アラケナク
ユテナク

某ちく ナクハ助辞也
万廿世五下 ちきゝ多くもおきろかきうも○源白氏そさ
ちかと以川さかんさくさ学る

イラナク
ワヒハカトナク
オキロナク

ちけ

ーーの笑
ーーの表
ーーのきき

古今春下 素性
咲けり春の山遠に侵しりかんこ星かちけの花のうけかも
万代 京二 後成女
かくこそ成多元めもうかりまのをれあさかりあけのちきうさうに
続古 京

け のむ ハ

○源蓬生 ちけのちきさ見みても ○同若菜上 ちけの表裏
もうけ一云れんこせあるいおろちけのうもかなしく。
日葛本 ちけのすちひふあをも咲ふれ
後撰 京四 ちちはちけるちのとこ見かくにはぬあい若もちろうん
云れちはちけるちのとこ見かくにはぬあい若もちろうん
金葉 集
云れちとちけるあとろひきい行ふ人のつくさもあうん

六帖

[illegible]

○

ちほ　イヨ〳〵ヒシ例

千雜中　茂示良清

[illegible]

伊勢集

[illegible]

後撰秋中　[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾玉五

[illegible]

イト、ナホ

イカテナホ

新拾　[illegible]

[illegible]

新後拾　[illegible]

同　[illegible]

同雜上　[illegible]

[illegible]

新続　古雜上　資藤

[illegible]

同雜中　後ノ松院

[illegible]

同春上　法下長舜

[illegible]

拾遺雜秋

[illegible]

○

あほ

拾遺雜春　さ丈し時　程さて見て　うとの花数まハ五ろそ見ハ初めるる

ナホ〜シ

○源梅枝　さく世の匂ひ　うとみて　あれ〜きるのみあり

くて外匂ひいとたうひみ人ひろきるのそや　○日遊七　人見

あ〜あほ〜きほおもふそ　ろる○

ナマシワク
ナマワカントホリ
ナマ女房
ナマタ暮方
ナマ徳アル
ナマ名僧
ナマクルシク

あほ集

徴衰一下七　うをあ〜もてのあほそそく　○源夏　あきこのん

こそり外とふ面きさち　ものそけん　○日まつむ　あほ女

房外ふ　ろ〜ほきて　○今昔廿八十八　生夕暮　方二

ナマクラキ
ナマイトシ
ナマコヒシク
ナマザフラヒ
ナマ学生
ナマケヤケシ
ナマ心ヤマシク

房ニ返テ　○同　同四十一　生夕暮ニ成ヌレハ　○同廿九四　生夕

暮ニ　○日　日五　生徳アル法師有ケリ　○日廿六廿二　京

ニ生名僧シテ人ノ請ヲ取テ行ヲ渡ル僧有ケ

リ　○源宿木　所せうんをあほそそく見て

ふ　○大和物語　あほそきをみ　○日あほひと

ミ〜時〜物外をいひろ人の　○日　あまた

匂き簾のわと放れて　○大鏡序　あほさふひ

の○日あほ学生につきて　○源初子　あほけやき

と見へ〜ろ人のうちたかしまて　○日廿女　あほ

んやお〜きほ〜み○

ふゐ　地震

栄花（花山 廿五）　ふゐ　ゆりてゝ○

ふゐ　形○姿

栄花（こたそぬ 十五）　女房のあり所も○字なほ（印さかの院下 古ふきあけ）

ゆりうこちもきこけゝ○係嶺　さふらぬ人々のゆりを

うこうちもゆ○同同　うちたゝのあるあさやうゆらぬ

をりゝうちまゝ○松冊子（三段）　ありいこれるゝろて

うをうちみゝれ　うゝ多ふをあるう

ふを　汝○涙　情ノモノヲモサシテイヘリ

（十五 実家）　うをうゝふを　君ゝ涙ゆれをかきぬらハの松ゆうも

○

三　言

ふいけ　泣気○ナキヲ音使ニテナイトヲヘ

枝衣三中（三ア ニウ）　時くいふいけを　ゆふをうを多由

へゝゝ○

ふゝ気　詠

松冊子 世八 尼 あるやうにうち明け見こみみそうかしおそそ
ていつつ見ともあれまし〳〵○長明無名抄上 あう
月の〻〻のいけりの月をそそやう〳〵〳〵おりめ
いそ〻〻をしうえ○今昔廿七廿八 コホレテニホフ花サ
クヿ哉ト長メケレハ○撰玄

あき祓 夫寢
栄花 日蔭蔓
あ〻事と今ハ昔さ祓の夏ハ〻〻いけりい若と思ふいう〻へき
新古哀傷
も
○添若紫 ものハおそ〻て昔さ祓ふ〻〻ものひり○

あさ星
六帖
うりつ〻と見る多ふてに梅ゑの花のあるいをしくやいあぬ
○玉勝間 けあるいい近世ふりふあむるの言ハ分をそう
新古雜上 雅經
あ玉〻〻みしハあるうの言

あるう
堀百海路
夕ハ多ふ〻〻うつ玉ハ〻て清あハあきあるうとあ〻ふ成へ〻
文水廿三回

○散木六 悲歌部 むろにハ日ろうこ侍て光侍〻〻い

てまきれるほとりみなとへ楫をしとて漕きとゝろて
なとりみハ漕きとゝまりける氣配これのうちみちもふれん
○同おほちとりふ所みて風吹ぬれはなきさとやその名川
といふさらなを呼てその神にうそへるなるとてこ
きつけける

さゝなみやいつへの船けさは志かの浦の名川ハおほちへの志ほさとこ
山家集下
あさちふ名せとのなきさハこそくともいさ塩さゝみおもしろ名しもや
曰
いつみなる波のはましくるなりふなきさふなかへりやこそすらん
新六海信実
はふ丈なかへりくこせ風やめて や晴間におきつ川あきされき
山家集 ちりせてくやしむ 立
敷立ハみし海沖におき出てなかへりくらふ海士のつゝみ

夫木卅三
散木
おきつ風ふけひの浦のはましきふなかへりとくこきみよ名ぬ名川之
夫木十七 千鳥
玄々集 入道大納言 定頼
おきつ風さむみ吹らし なみたつ方 和泉のさうしといふ所みて 暁かけてなこその名川之
○新古今 落句
浪そよせくるかな
宇都保 吹上上
さしもよるハ嵐の風そ吹なるめ川しきなこそらゝなえるなさる名
○催馬楽 紀伊国
風しもふれはなみしもたつ名なりしも名
まえこれをまつてさまさその宮はこえ浪○梁塵秘
なかへりハ風名所なかへりと同 ○ ナコリ本語ニテナコロハ
後傳之風ノタテシアト
ニタツ浪ト云意ニテ餘波ヲモナコリトヨメルセサ
レハ風トスル説ハ非也 催馬楽及散木さのこやハ

ノ哥ノハシカキニテモシルヘシ又ナホクハシクイ
ハヽ菅家集こいそに寄ノ哥ニテ考レハオヨソ
海上ニ小山ノ如クタツ丈波ノ末ノイワキハニシ
ケクチイサクヨルモノセワレ加ニソコロトナシ
トフタツニヨメルセサレハナコロハ清ノ字ニテ
アタルヘキカ

○八雲抄 浪 あらきをそ あさろとふ

古今春下 夢之
さくらはなちりぬる風のなごりには水なきそらに波ぞたちける

拾玉二海路
うきぬなはくるしき海のなかなれは浦吹風をたのみ侍ら

日七海上 霞殿
霞ゆへ波のなかなる雞波とを鈴のあさろの音たかしてを

為定羽院家百首 為盛
あさろ川いそのまつかせをそ侍さきみうらふなとも

元夏集
伊勢の海のあさけ潟舟まこ風をたのみいるみ月ふん

日
伊勢の海のあさりをこそ思ふあまもお月ふていそ出し

○伊勢物語 波のいとあかしてあるを 六条本ニハ波ナ

駄盧とそ云ふ

かゝりき 名薄

字つ保爰ふ君ちまゝ有ける有川きをとゝ見させのいて○

名簿 書様 台記 各月記 等に見エ○宇治拾遺

物ちゝ人の寄るみ なるちゝみ名薄を

まうゝのゝ云ふ○後撰 雜二をとゝ女ちの結

りまは 夢之にあ云ふ ひく 兼俊羽院の家に

なつきと侍へさを侍りなとちあつきよりまへく夢之は遣り

なるこつ紙　○コレハ兼帥オモ役ナル故ニ賀之ヲタ
オキテ立身セニト　ノミテ名薄ヲオクリテ名マヘヲ通シ
セシナリ　○今昔　世四　十六　今ヨリ偏ニ御券
子ニテ候公ト云テ忽ニ名符ヲ書テナム取セタリ
ケル○同世五九　○古事記六
○延喜式　○後拾遺雜三
○続世継　忘あるせめらく

ふにう　ナニヤカヤセ
中務日記　今一度ぞとくせんとも為てふにうに為ばと
もうきうあるこの世にもれぬきれも

ふめ元
業忠卿　月妄　ミウ　ふれ元よちさけあるて○花山　世三　ふめ元ゆあき
けあ元て
支ホ十二丁　光明峯入道　持政
月影みあ元ふ元の取えて　ちめよ元てるさ我舟さし
拾遺　負外下
ケ宵のこ書やうもりの第元ふ元ふの国とふけあなり
○俗譯　オホカタ　○

ふめる
壬二集上
ものよりも秋てふめる元ゆあきふ山のこその雲

○ けだものの詞いうけだものハ松言風有一色 秋の句 元明天
こはぎ〜〜ゆらへらぬ〜〜とも 〜〜鳥声ハ虫とにおろ〜〜ふめると
ゆみ〜〜ハ其音の音のおれう名をゆみよ ゆえ こうたた
さゆ〜〜めゝ〜〜 〜〜 拾遺巻草上九十 鳥丁雉鶏 郭公の類ハ
秋ハ来ぬと萩の葉風ハ名のうへ人ゝゝゝ秋名そうハの色
雅経集 花鳥井集
朝倉や木の丸殿ゆゆ名とハ秋ハ名のる萩のうち風

○

ゆたて

文永三 光俊
玉ぼこの道のゆたて秋さ〜〜萩さやゆゆ風名ちゆやゆゆん

○

ゆゆる 訛(ヨコナハル) 日本紀訓 ○東人(アツマ)ハ声ナマルモノ也

金葉 連云 ゆゆ名〜〜ゆゆ名の北の〜〜に声ゆゆ名〜〜ゆゆ名人
の物ハ云〜〜を少て〜〜永成法師 ゆゆ名人のゆゆ名てゆき
さに少ゆゆ名 律師芳範 ゆゆの四〜〜ゆゆ名やみ〜〜む

○

ゆゆ名き 鳴澤 ○鳴砂
長秋詠藻下 右大臣家百首 文明四五年中
ゆゆ名ハ名〜〜ゆゆ名にて名ゆゆ名き名ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名ん

○長名無 名抄上云 五条の三位入道ハ世道の長者ゆ
ゆ名ハ名〜〜ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名
ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名ゆゆ名の道名ゆゆ名の大將ゆゆ名ゆゆ名

しをりみしきせ道の遠恨みて物ゝ行しおのゝ去
まつ秋のちりゝはぬ丹ぬゝはあゝしをいとりのゝをりに
ちをり○

ちをり　名折カ其王ノハ名ヲクタス義也
拾玉二義
秋のをりあきの哀の花ちりたきあちをりの初めを名る
支庚十一

○盛衰記十六満仲不及カサテ止ヌ昆ノ人アヽ
源氏ノ名折々ト云ケレハ○同世平將軍夏
成ヨリ武勇ニ雖テ八代末一度モ名ヲ折ス

重家卿家哥合　資隆
かをとゝ見て山時多きなりはしたを形橋の名をそをりおし
○

四言

ちゝ多ち
ナカヒト
ナカタテ
ちゝ多ち
吳異記
○催馬楽浅水
○続古序　年をいとふゝ多てとゝ多り○林葉五　失中人忘
かゝ多れゝ多ちかゝるゝうあう人をいりゝハ笑し人の

ふうれ祝　中子日之

後拾雑四　ふゆ中の子日とていとなみやとて　下畧　うぢのあいし

ものをとふまゐりていもんかくてとうとう弓をとる中の祝こそ物うらふ

○

あのうた　長橋

栄花　れまゐり　藤代を見しもたてまつりの行

みうせぬ　とうとうちはとも

新六　あとうさ　光後

七宮　藤代の　ものとて　引つる　祝ても　海ある　とう

○

かぐら

金葉上　橋季通

あをとし　かくとも　ちはやふる　ちはやぶる　さつき　ぬるらん

とも　拾遺

袖中十六　同

○

ふうれ川

竹取　玉の枝をも　長れ川よいまて　ものはひく　持て来

る○土佐日記　ながれいる　くるふ　ふちとも　絶て　川のも　海のも

ものとも　ながれ川に　みあひ　つゆく　おちせて　○栄花

玉巻　ふうれ川とて　ふちの　みれとも　あさし　ものとて

さ[illegible]れた○今昔廿六九長櫃二ツ荷ニ持来
タリ○同同十七長櫃ニ火多クロテ疊厚ク敷メ
タルニ菓子食物ナト儲タル様微妙也○讃
岐日記長櫃にちやきたるものとりたてめ
ちきうたるもの[illegible]きぬ入てとてつきたる
○増鏡畑書ク女房のさうそくいときよらかなり十
具ばかりつゝみたるなどいとおとろ〳〵しうみおくる○

おうもち

業光著校 おうもちうちのふるにはおとろ〳〵しう

みゝ入〳〵○字治保国儀長持の足分しるる三○

おうち〳〵間善

隆信集衣傷多由〳〵中ちゝあるて父子ノ間ニイヘリ○枕冊
子廿八段中をしはかりくもいたる行成ト清少ト也○

おてらの

続千釋教鳥羽院御時御てらの境地多まして
美しかりける
源東座みゝ人の御ことしろあるも多ふるとおもふきちのなてはなりません

同日
みなせ川せゝみくさん(?)てあと引ふそうけと多れゝ多のまん

○

あゝくさ

赤染集三　正月七日ところ(?)人(?)ふやるとて

春日野の(?)くふ川(?)くさ(?)れ(?)春さそふ日いつそとも(?)

拾玉四

雪ふそうゝあ川なたま屋(?)せてつくて(?)ゆ七草(?)をものまいらん

○

あたゝえい　縄纓

続世継六　たうたゝき　清盛くあてまゆ里(?)れとしゝりゝ紋も

ぬきはうゝふゝあもえいれてきまえて〳〵○

あもゝ堂川

万十

うゝ由やあるあもゝ堂川　弱のおゝゝくいもうい刻〳〵おきて意〳〵も

拾遠雑賀　定文

ゆきゝゝせもゝ堂〳〵ハゝゝて春弱のつ赤ゆきゆゝをあもゝ堂川とき〳〵

○

あ由〳〵ひ

万四

ゆゝゝて人みゝえて奈麻陸ゆ乃ゆ見へとあゝそう祢川る

射恒集

彰玉の年の四ゝせとあゝ〳〵いゆ引をてゝゝゝひつゝきむ

○

なこうは　波数

曽丹集

きた海に吾の波かはかえはるあ乃の志葉と人も見えとて

後撰恋三　なこり人志かは

浪数にあらぬ身なれは住よしの岸にもよし汝なやまてなん

同伊勢

住のえの色にちかふらは岸に居て波の数をもよむへきなと

○

なかう

志の田杜下　ほとゝきすなかてをりて　○源　たまき

夫木　廿六　後鳥羽院

ぬるさよの月の宿りかなにも汝あかすあはてもいかにぬるらむ

なりあふ　成合○　ゆくてのうちあはぬをいふ

源松風　いまゝらやきあひしかはなしなりあふなとに

なりあひみしに○同宿木　ときなとにあなるけかち

しみへるを○同　あきなく成合ぬ人を○

なかしろ　蔑如（ナイカシロ）　五言

六帖題　ないかしろ　○　槌冊子　ないかしろなる　○源　空蝉

ふがごとり　長篭　河

源　ふうあとりしなもんも　ゐん

○

ふうやとり

源　夕顔

拾玉四　○同　宿本　ゐ帰里の中やとりにい

時雨とりの梢のこしくしみ中やとりしむるまゐの紅をむ

ナカヤト

○

ふさけあ〜

元の句祝下　ふさけあ〜ふうとてて〜もいうてて出るふへき○

あ〜あ　七歩詩

拾玉一　う〜風ふあ〜あ月みき〜あ月ひとやこ時ふあ〜てちうとてものす

○

ふにとうや

千載三　忠良　ふにとうやこのふゆハあ〜て〜古九の新　猶み志ゆう菓の名そうき

○古草　ナリ

拾遺　物名　あ月とうやとうやくきこのさけみ花ちかくハあ月九あ月えて〜あへ〜く花の名ナりこはれ

元治二年 百六

何とゝ[illegible]

新古雜下 皇嘉門院

何とゝやかへみはの[illegible]

源俊頼朝臣

行とゝやりふのさゝをかゝとつおるゝまてに[illegible]

○

ちぬうやむ

業兼 うゝのゝ 四十五

ちおとゝいちぬゝやむとゝふんやゝに○

ちはゝとの

徒衣一下八九月ついたちちろちはゝとのあるゝ中將の

君中納言ゝ[illegible]のゝを書おゝ[illegible]之○源宿禰 きゝちゝ女 つゝちゝ[illegible]

ちゝ[illegible]ゝとゝ[illegible]ゝに權大納言ゝ[illegible]○同

除目直物縣召或京官除目以後執筆直物也中行

也或除目以後兩三日をへてもを也光度除目に

參善の事ちを[illegible]直物ゝ云也其次に

書入る事ゝ之○江次第拔四云直物者除目

之時所給於二者之召名中有失錯之時大臣

著陣令參議改直件召名也上古每年除目記

一月中行之中古以來不必行之其時召出年々

召名而悉改之其失錯者外記作直物勘文奏上也

此次被行小除目叙位女官除目叙位等有無不定也

[illegible]

紫集

[illegible]

○

[illegible]

拾玉一

山[illegible]

成就

○

六言

後撰 [illegible] 小野遠実女

[illegible]

拾遺 [illegible] 三 [illegible]

空秋 [illegible]

[illegible]

日葉 [illegible]

[illegible]

源未つむ

[illegible]

日紅葉賀

[illegible]

日葵

[illegible]

日あり
うきみ[illegible]
日やとりき
[illegible]つる中の衣とを多のこゝを加たるゆやいうけたれば[illegible]

○

あきにおとろ
万代 亥三　梅壺女御
さそもふふりまんくまん人も仍あきみおとろていろ多そうき

○

あきさの
拾遺雜下　西行法師
秋ゆくてあきさのくさいあひみるう海てふちいあしとそ思ふ

月雜春　ミつ保
さらつ〜元亦宿みのこありとこそ仍きのくさい思いさしは

○家集　くきあきせする和　○契仲云ちき和ちさい無
差ていつ[illegible]ゆや語不定○

ああしの月
ゆつ保　紫使
落ちもあしのくのくきいゆむてふちの仍きこちる
日日
人ゆきあしの月を和まれ〜せのくきみくるくやとて

○

名多き草

源若菜上 さくらのきさかりにさくらとつくりておほみあきお
もとはあらしけと○河高名録云韓狩落花形垂無生角
世 鵜形 雲形 鶴通天 鴛通天○細石の帯
也○からつ保 ちおとゝのはしもとにおやのは時
そらつきしつかなれる名たかきおもおいえんにさし給
へるはみ一条殿におきなへてはるとと○源紅葉賀
はさくそくしかなに名たかきはおひなつりまうせて
こなりかひくはそのはうしろもきつらひけと○

あらのやしろ

新古神祇 慈円
ゑゑのむ七の社のゆふたすきうけてもこゝのちかひへはな
千二集下 千早振七の社のあらちかよ千代をさへこや祝詞をそきこゆらん
拾後百 後頼 いのるてもあら此社かけしともちとあはせそく口たしる哉

○

あらひと神

夫木廿四 慈鎮
二月やよひの桜をちるとてせ寿神は跡を常にしらん
同日 祝部成賢
萬代の春まちあかし八重桜七まち寿神のまのこゝろかき
続後拾神祇
数ふれはのるみもをうけてそゝもまち神の七のゆふして
拾遺愚草上
やちよへとゝる光りさやうみてらしみそゑのむ日光の七のやしろ

○

あくまの人　尚書舎記　仲綱

ちる花ハうゝの雪とつもりけんあまぎくのうゝやはゝさみ

○

ちぬうのほる

拾遺　雑恋　いかゝのほうに女のをとこをつけて侍りける

ゝゝ人ちゝに

ゝゝのあゝてゝあゝ山ちぬゝのわかゝゝとゝもん

セタヒマラツ

○枕冊子ゝゝやはゝきゝの

三ゝゝいまゝてぬ四ゝ

ゝゝ

続古賀　大峯　ゝゝ　信山紀行

あゝゝの川のゝをつゝ

コレハ大峯ニセタヒマ　○

ウテシ行カヲイフカ

あゝゝ　里こうい　縄鞦

ゝ　保　茂系若

あはゝのゝ　不熟者

源玉うつ　そうぬちまものともあれつもらぬも
かゝるけ物きて○

ちゝこうほ

長明無名上　九条度太大臣の時人〻に百首のうた
きせ　ものしけるに　伊豆守仲綱のうに物もうほ
れそうみしうた大武入道守てうの調をあん人ども
百子の秀句をゝ多りとも　ふうゝうをゝいもん
（和泉式部集）
ゝをハ物ゝハ　あをあるうをいさつゝかゝん　あるいちうやと
○

ちゝ（みゝ）

狩衣一上　廿五

七言

ちゝ川の多かゝ
うゝ　保　祭使　馬うゝ　ハあをうみいきほひゝ七の多かゝ
をやうん　うゝ物ゝ　ちそおもしゝ　ちゝ見れ○

ちゝのおいゝ　七曳

尚歯会記　李涯

今ハ〻ふりけり車と引つれ〻七の宮〻ゝ[illegible]

○

[illegible]の玉　七曲玉

久安百首　清輔

七[illegible]の玉ゝ[illegible]ぬくものと[illegible]ふんをいそ通はん

家集

万代亥二

○枕冊子

八言

[illegible]人　今俗ニイフ似タモノトイフニ同シ

後京一上九　さ[illegible]ゝ[illegible]人あり[illegible]と○

九言

[illegible]い[illegible]坊のふき

異俗日記　[illegible]坊のふきかけてせ人ゝ[illegible]○

[illegible]の加[illegible]　謎○隠語○廋詞

拾遺雜上　[illegible]

[illegible]

○枕冊子　[illegible]

○実方集 小一条殿の人々あそびをのかりする
支林外 天元四年四月小野宮の家会あるに、袍のあしをかりにやる 読人不知
秋まくぬい袍のうしろ見てハあしを角けの高さまさ袍所はあらてそ見る

にの部

一言

荷ニ

万十八
つ袍の高いやまくやはぬあらうら海よりひとハ多比あんる
教林秀海所歌
高さとさくまにつめる袍所とハかちもみとりてさくろせる浪

○

二言

二字 即名簿ノ事ヲトオカシ

古事談三 一門子息等献二字於僧正乃被免

之後存命云〻○同六乞返二字退帰畢上二名簿ヲオ
リルヨ
ニアリ○實名多二字故語之二字○明月記
天福二年七月廿七日山門好土佐阿闍梨快
明以春日三位相具二字来称病不逢返二字ヲ
明快座主名字為山僧可憚哉如何○通證一蒙言廿一丁
可考○

某にて縣居説いはてゝ○に助辞
大和物語けてきかきりのかん思ひつゝひゝて行ゝ○

に云某新
和名新川
万
ふるゝきに思ひ出ゆゝも
同土
支本ニ忠定
足原せゝ去ハ為家
同
去日みゝゝ思ひ為家につれなくてゝゝ
同禅子内親王家家合
ひさしくなりぬるきの咲ゝ去めの中ハ思ひ第よゝえてゝゝ
○

二ヒ草
二ヒ手枕
二ヒ葉
二ヒ若草
二ヒ紫

にあふ

異本堤中納言物語　かたうらうらきくはみきこえ
しるこの内うちにあひろひぬへきくこにこそ　○水鏡
跋文世あらさえうこうらくの大鏡あるいひてうき
おきてろよ却ろ似たりて初いやしくひうてあほ
てこそ有るあく

にうい　二階

思俗日記　あのうへふこういを作りけ　○同紙の上つく
りうけうる二ういのさ四あるこ　○うけうふ　こうとうきつけ

てこういよ却きこうう　コレハ二階厨子ナルヘシ　○源　東屋　つ
二ういあてあやしきまてこそ

にきみ　痤　○和名痤唐韻云一名岐美小瘡也

栄花　くものふるまひ　内に佛あきみ却てはてうも
彩あてて　○同　根合　内の佛にきみのあほおこ
こせうもも

荷鞍　ニクラ
為忠後百　仲正
あさましちよ酒のあくというきあてきあるせつうう嘆うう

支木せ七同

○

あげ免 逃目

源 箒木 あげめをつゝひて○今昔 世一 世一 逃目ヲ仕

ヒテ○

西日

業花 玉藻 あ一日の淵よりかまを出すのうゑものゝ

ろ〳〵のみもしのうゑものゝもきゝめきて○

あゝふ

林葉五 あちき釣しいさこてゝしゝゝ日あゝきをを法のあるゝまあひゝさん

○大和物語 百五十段 あ一あゝあひゝゝ男の○

フタマ 一の間

二の間

源 若紫 上 むしゝにしの二の間のひんゝのまみあれた○花

階ゝ〳〵あゝゝもむ二間ゝあゝゝ車の柱のそゝゝゝゝ

○細 階の間の二間めゝ○讃岐日記 佐五つゝ人ゝち

引ゝゝて一の間ゝハ出せゝゝ行ゝまてゝゝた○

センジモノ

煎物（ニモノ）

今昔せ八十八皆鍋ニ切入テ煎物ニ艶ラ調義シテケリ中畧此和多利ノ煎物ヲ温メテ汁物ニテ食セタレハ○同世十二煎物ニテモ丼シ焼物ニテモ義キ奴ソカシ

如意（ニヨイ）

北山抄ノ釋奠ノ又ノ日明經論義ノ所ニ侍士ノ如意ヲトルトニエタリ

ふらん 呻

竹取ふらんとしてふるあまきて家ニ入かひぬる

四言

みぎ〳〵

愚管抄五庫頼朝ふるいふさるふらひ者あるみぎ〳〵

ためつらいて

みくさげ

大和物語いとみくさけある女のあると　醍

にくさみ　詳

万代雜四　能因
みくさみそかくへうりるあるもとを船うあるこいこを船まを

○能因宮枕云みくさみい舟ヨ個つけこるを云

小町家集
ちきくぬやあ国のうせまも唐絵てみくさひうけうあまの釣船

○同長宮歌ヨみるこつの志まをてう浦こく船のめまを

ろろろソつうらき芸のくよさこの己ヨ多うけつ代世ゑい思

ふてろあきこといあるタへき○住吉物語おきりうこきくろ

船ヨいあやしき芸ヨてみくきひうくるおとこうふもさに

うまをうろうろ

あげつく

源玉うつ　るまみけついるるもこんのほんるりる○河

似氣付○

みさりる　深

天芸竟宴歌　天雅考哥注　そのやにちみさりる　矢血深

○書紀こいチソノヤニスレタリとあり

にの人

栄元月宴八方 九条ちの二の人ゝておさへ置てあほ一ちゝ

きこえ人ゝ思ひきこえさせしめる

二の内ち

源 第木 これい二の内ちの人やはきあゝ〇 二番ト ちり 〇

二の内ひ 二ノ舞

栄元 衣珠 いこい二の内ひゝて人の情ゆをはるゝ

ぬへきうちとゝきこ〇盛裏記四十六 鎌倉殿蒲冠者ニ云

和殿トテモ非可打解九郎カ様々ニノ舞モヤ

ト存スレい上洛ノ丁暫可相計

庭のり

盛裏記十一 隨身清房カ三黒ト云小馬ヲ賜テ

庭乗仕りケル程ニ〇

みもちゆき

為豊

おもしろやゝもちゆきぬるをさのをとゝのをえしをるあ

入調

続世継 ゑちぜのゝ大食調ノ入調ヲ○古事談六

同

入湯

中務日記ついてみちとみくさゝうて京へ帰つきぬ。

入麺（ラメン）

中御門宣胤卿記文亀二年正月廿五日 云云 賜

入麺天酒等○

みほそ汁 調

○源 角保 君ぞちかもとつくもそ安とらうろふ

うくゝとみほそておきてしうそ。

みほひう

後撰集 恋五 詞書 恋ひ

うめの花ゝまいこほれぬ之ゝ神よ白ひをらうせ京つとよせん

六帖 みほそふう

月蝕

日蝕

拾遺雜哀 日蝕の時太皇大后宮より一品のもとへつ
かはしける

あしたのうちはやつひよりやみのよにいでぬ人のあるかい
なる

山家集下 月蝕と題して

いもとをしひて彩よあくるまてぬるよひもこれて月をまちあかすかな

文十三回

新拾撰新上 月蝕を彩てこひつけ侍ける 法印能誉

うすもりにくもりなくてのこりなくてるらんかたをいのるなりけり

○東鑑廿八十四 今日可有日蝕之旨宿曜備中法橋依申之可被衆御所否○

五言

にてさ〳〵

後拾春上 通宗

六帖 題

後拾春下 和泉式部

にもの〳〵

第元 鶴林 あしたのまに〳〵ふ〳〵まろふ○同 題 あしたのま〳〵

にふ〳〵まろひ○同 あしたて 道のまに〳〵あらせ〳〵○

二万の里
金葉賀

人非人

長明無名抄上ちうこの人非人よつてあつて。法華経ヨ

人非人とあるい人を非人を非人い。
人類よりあらぬ屋をいつて

女房 妾ヲサシテイヘル例

住吉物語 みよしほうめうさにおそれさせ三の君さい

しくあんとうこうして 女將ノ妻三君ナリ。盛衰記十僧都ハ

宛衰ヤサテハ女房ハ早ハカナク成給ケルニ

コリ妻ヲイフ。同廿二土肥女房ノモトヨリ消息

アリ妻ナリ

六言

みろくしくし

小嶋口号 從一日やくにようくくて甚秋いあけぬ

。同ちうしいみろくしくひしめきて。志のひ土屋よ

いよろくしくきひしくめりへて。深

みなへし。今昔世八十極テ苦リテ此モ彼モ否
不云テ居タラムハ。同世五皆若リナリテ止
ニケリ。水鏡下光仁
[illegible]

二相（ニサウ）の人

清村一　[illegible]母后に[illegible]二相の人なりとおとろ
[illegible]人の[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]

みのひうり
栄花玉巻
池[illegible]
。

[illegible]　脊玲
保憲女集　[illegible]
同　[illegible]物名。和名

[illegible]

万代雑　入道西行法師
[illegible]
続古奏傷同

七言

二月五番

後拾遺雑五　ひえの山よ二月五番とて荒行をつとめて
[illegible]○雪降　云々いろいろ云て山の人もさはぐ云々。

[illegible]

散木集　陸奥法師のもとよりあれはてぬるいほりをとこ
もとりてあもさりられてさしつかはすとて
こもりぬるのもりのあきはてにはるはあるかとうしらす
陸奥法師
[illegible]
支本廿六

○東鑑十五　廿八　但神社供税贄鷹事者非所制之
限○同四十　三十　諸社贄鷹外禁断之處

十言

[illegible]

文政十二秋田　為家

昨日こそ神田のさゝ穂へいなをかけてひとゝ

○